

地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	医療法人 慈風会
代 表 者 名	理事長 宮崎 茂則
事 業 所 名	グループホームみやざき
評 価 確 定 日	2022/11/29

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700104		
法人名	医療法人 慈風会		
事業所名	認知症対応型生活介護 グループホームみやざき		
所在地	福井県坂井市三国町北本町2-2-6		
自己評価作成日	令和 4年 10月 12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 4年 10月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が病院でありその中にある施設として普段より24時間、緊急時対応も連携が取れている医療の提供ができる事によって本人、また家族にも安心して生活していただけている</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はえちぜん鉄道三国駅前に立地し、宮崎病院2階にデイサービスセンター・デイケアを併設した医療と福祉が総合的に提供できる複合施設となっている。周辺には瀧谷寺、成田山など多くの寺院や小、中、高の各学校がある。近隣には図書館、古い湊町並み、歴史的建造物も点在しており、祭りも事業所前で開催されるなど、地域に密着した利便性の高い場所にある。事業所は法人理念を基に開設時に職員で考えた理念がある。「愛情をもって接し毎日たくさん笑顔が見れるような介護を提供します。」この理念を大切に守り、コロナ禍でも利用者が安心して楽しくその人らしく過ごせるよう家族と連絡を取りあいスタッフ会議の場で情報を共有するなどして、家庭的な雰囲気の中で連携して利用者支援を実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し異動のあったスタッフにも説明を行い職員が共有認識のもと入居者様の支援に努めている	法人理念と私たちのマナー五つの約束と事業所理念・基本方針は事業所に掲示し職員が日頃から確認できるようにしている。事業所理念は毎月配布している広報紙に記載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため交流に制限はあるが地域行事の情報をもらっている	町内会に加入している。情報をもらって三国まつり、駅前広場セレモニーを見学している。地域の保育園から作品と発表会のDVDが届いており、相互間で交流ができるような取組みを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の利用する美容院では認知症サポーターがおり理解して頂けている コロナ対策で実際の参加はまだ難しいが三国祭りや駅前イベントなど遠くから観覧するなどしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は感染予防で開催はそよかぜとの合同会議が1回のみで他、書面で近況報告のみ行った	家族代表、民生委員、広域連合、地域包括支援センター、職員が出席し、現状報告、行事、各種委員会の実施報告を行い意見をもらっている。書面開催の場合は構成メンバーに書類を送付している。	構成メンバーに区長を加えて、地域住民と連携を取りやすい関係を持ち避難訓練等にも役立て、サービス向上に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更届などの不明な点、不足部分などの助言を受けたり、包括では市で開催されるイベントを教えてもらっている	地域包括支援センターと日頃から連絡を取り合い情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアとして見守り対応を行っている。夜間のみ入り口の施錠を行っている	身体拘束勉強会を実施し、どのように予防していくか職員間で話し合い、安全委員会で検討している。スピーチロック等の不適切な対応には、お互い注意しあいスタッフ会議でも話し合っている。事業所入り口にはセンサーを取り付け、日中は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の知識を職員間で共有し注意しあうことで意識をもち介護を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者なし 勉強会や資料にて理解を深めるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染予防のため見学は行えていないがホーム内の写真を使用するなど対応し、不安や疑問点に関しても説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回以上家族との面談を行い意見や要望を聞き取りしている 聞き取りを行った内容に関しては記録を残し職員間で共有とスタッフ会議での話し合いを行っている	昨年より家族にアンケートを年1回実施している。広報紙による近況報告は毎月請求書と一緒に家族に送っている。日頃から連絡を取り合い話しやすい関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は申し送りや報告にて即日対応し話し合いが必要な案件に関してはスタッフ会議にて対応している	年1回管理者と職員は面談している。日頃から出てきた意見や提案は事業所内で共有するためスタッフ会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休、有休などほぼ希望通りに取る事ができている 休憩室を作り休憩時間に利用者と離れる空間を作ることでスタッフのリフレッシュが行える		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の病院内の勉強会への参加にてより広い知識を持ってもらえるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加した際には情報交流ができるよう心掛けているがコロナウィルス感染対策もあり交流が持てるような外部への研修は参加できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ伺い、本人と住宅環境と現状を把握し心地の良い生活の場となれるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時に家族の思いを聞き安心して頂けるような対応を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容が本人の現在の状況と必要としていること、また家族の必要としていることに対して合っているかの検討を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで行ってきた家事、作業、活動が出来なくならないように見守り支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回以上は家族と面談、電話にて本人の生活状況を伝え日頃の様子を知って頂く事で一緒に本人を支えていける関係を心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染対策にて外出が制限されてしまった中で外部の病院への受診時などに家族、親戚が付き添ってくれる事で関係が途切れないよう支援できている	コロナ禍でなかなか馴染みの関係維持は難しいが、自宅周辺へのドライブや近所の行きつけの美容室へ定期的に出かけることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者により合う合わないはある為座席に工夫したりスタッフが間に入り共通の話題を提供したり作業を一緒に取り組むなど行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても併設の病院や近隣などでお会いする事もありその後の家族との関係も引き続き大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人との会話や表情、家族からの情報をもとに一人一人の支援に心掛けている	利用者が楽しく笑って好きなことをしている時に思いや意向を引き出せるよう工夫している。日頃の会話時もゆっくり話が聞けるよう時間をとることを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にカンファレンスを行い本人や生活環境に関する情報収集を行っている 必要に応じて主治医に情報提供もお願いしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態の観察を行いながら本人の出来る事を支援しスタッフ同士情報共有できるように記録、引継ぎを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、看護師、栄養士を含めカンファレンスを行い意見をもらった上、介護計画を作成している	介護計画の中から実施目標を設定し、ケアチェック表で毎日確認している。モニタリングは月1回実施し状況の変化や気づいたことはカンファレンスノートに記入し職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日常の出来事、本人の様子を記入し情報共有を行い介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に出来る限り応えられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	作品を併設院内に飾り、患者様に見て頂くことで創作意欲につなげている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設にて24時間連携を取っておりその都度適切な医療を受ける事ができるように支援している	希望するかかりつけ医を受診できる。法人協力医の往診が2週に1回あり、いつでも病院の医師、担当看護師に連絡が取れる体制になっており、利用者の安心、安全につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や外来受診以外にも異常がある際は担当看護師に報告や相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設院ならば入院時の状態把握を兼ねお見舞いを行い、他院の場合は連携室より情報をもらうなどするため普段より併設院内の関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期については入居時にも説明し状態に変化があるごとに本人、家族と話し合いを持っている	マニュアルを整備し、契約時に説明している。重度化により事業所内の浴槽に介助しても入れない状態になった場合は安心して入浴できる施設を紹介している。	利用者が重度化しても安全に安心して事業所内で入浴が出来る様、多職種が連携して入浴方法の検討をすることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時はマニュアルに沿って対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設院と共に消防の指導の下避難訓練を行っている	消防署指導で火災訓練を年2回、夜間も想定して実施している。地域支援フローチャートを備えており、災害時支援体制について職員間で共有し消防署も入れる取組みを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を傷つけないよう声掛けを行い、入浴や排泄の際のプライバシーにも配慮している	法人全体でDVD・オンライン研修を実施している。安全委員会は月1回開催し尊厳を損ねない接し方を話し合っている。職員は小声でゆっくりと話しかけ利用者に合わせた対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業時など選択肢を用意し自己決定して頂いている 自分で決定が難しい場合にも表情や本人の関心を考えながら自己決定ができるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を尊重し本人のペースを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近所の美容室へ行き本人のしたい髪の長さにしてもらっている ダンスから好きな服を選んで着てもらおう 季節感などはさりげない声掛けで調節している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病院長が基本となっている為好みのメニューを随時提供する事は難しい為、月に一回食事会を行い出来る事は一緒に取り組んでいる また、厨房側も月一回季節を取り入れた行事食を提供してくれている	病院厨房から利用者の状態に合わせた治療食を用意し事業所に運んでいる。食の楽しみを持てるよう利用者の希望を取り入れた食事会を月1回実施している。地元の食材を使って事業所内で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携を取り食事形態の相談など随時行っている 水分は毎日摂取量をチェックし、記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りで行える方や自立の方、排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いできることは自分で行ってもらえるよう支援している	チェック表で、水分摂取量、排泄状況を把握している。申し送り時に情報を交換しスムーズに排泄できる支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防策として水分補給、トイレの声掛けを行い排便の促しを行っている 不便が続く場合は運動の声掛けもするがそれでも難しい時は主治医に相談し便秘薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で一对一での対応を行っている その日のタイミング、予定なども含め午前、午後で行っている 湯舟に入りたくないや、お湯加減などその都度どうするかを聞き対応を行っている	入浴回数は基本週2回である。日曜日以外毎日午前午後のいずれかの時間に入浴することができる。個浴を使用して毎回お湯を張り替えている。衛生的に個々の好みに合わせて入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで自由に過ごして頂き午睡も寝すぎないように声掛けを行いつつ本人に任せている 夜間も居室ごとに温度管理を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個別のファイルにとじ一週間ごとに引き出しに分けて職員がすぐに確認できるようにしている 症状の変化が見られた場合は看護師に相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や希望に沿った作業に取り組んでもらったり洗濯干し、たたみ、食器洗いなどやりたいことに取り組んでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策で外部との接触を控えていたが徐々に外出を増やしている 買い物や自宅周辺へのドライブなど希望を聞いて行っている	コロナ禍でも外出する機会を多く持ちたいとの思いから、1時間程度、海岸をドライブしたり、コスモスを見に行くなど工夫して支援につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できる方がいない為所持はして頂いていない 必要時は家族と相談している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方にはその都度対応している また、家族からの電話をつなぎ会話する事で安心して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこにいてもトイレの場所がわかるようにしている 日付がわかるように日めくりをつけたり季節がわかるような作品を飾っている	共用空間には利用者がゆっくりくつろげるソファ、テレビを設置している。壁には職員と利用者が作った作品を飾り季節を感じることができる。テーブル席はその人に合わせた心地よい居場所になっており、落ち着いた家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座席はできるだけ気の合う方同士にしている ソファで好きな録画番組を見て頂いたりもしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、写真、制作したものを飾る事で安心感を持っていただけるよう工夫している	ベッド、テレビ、ダンス、椅子を設置している。高窓から日光が入り明るく、鉢植えを配置している。利用者の好みの物を持ち込むことができる。家族の写真や思い出の写真を飾るなど自分好みの快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできる力を活かして生活しているよう支援を行っている		